

経営目標

- 地域に根ざし、地域と連携し、地域のまちづくりに貢献できる「まちづくり会社」として行動する。
- まちづくりに取組む人材、組織、地域をつなげるプラットフォームとしての役割を果たす。
- 自ら新たなまちづくり事業、まち経営事業を開拓するローカルベンチャーとしての成長をめざす。

事業概要



組織概要

社 名	株式会社ノーザンクロス
創 立	昭和 62 年 7 月 1 日
資 本 金	3,000 万円
業 種	総合まちづくり業
代 表 者	代表取締役 山重 明
スタッフ	22 名
連携組織	NPO 法人北海道遺産協議会
オフィス	〒060-0041 札幌市中央区大通東 2 丁目 3 番地 1 第 36 桂和ビル 7 階 TEL : 011-232-3661 FAX : 011-232-4918 URL : https://www.northerncross.co.jp

札幌都心部 都市再生支援事業

- 平成 14 年に札幌市にて策定された『都心まちづくり計画』を継承し、『人』『創造』『環境』をテーマにした、新たな時代に相応しい都心のまちづくりの戦略の構築に向け、今後の都心像の方向性やまちづくりの推進方策等について、学識者・専門家からなる『都心まちづくり戦略会議』の運営とコーディネートを通じて基本的方向性を導き、次年度の戦略策定に向けた基本用件の整理を行いました。



当該地区における市街地再開発事業の
具体化に向け、権利者を中心に平成
26年度に新たに設立された『北4東
6周辺地区再開発準備組合』の支援・
コーディネート、開発計画・事業計画
の検討、及び個別権利者協議を推進し
ています。



駅移転が想定される苗穂駅南地区における駅整備と連携した市街地再開発を通じた「まちづくりの核」の実現に向け、地元権利者からなる「苗穂駅南地区再開発準備組合」の事務局として開発計画検討、権利者・行政等の関係主体協議を進めています。



具体的には、ポルタビルをまちづくりや活性化の核としながら、再生した複合駅舎や生涯学習センターとの有機的な連携を図りつつ、拠点形成や街歩きを楽しむ新たな魅力を発見できる場の形成などにより中心市街地の活性化の方向性について整理しています。



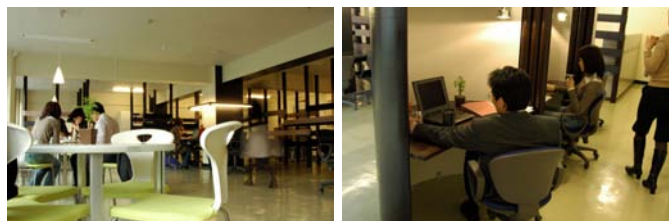
タウンマネジメント事業

中心市街地における空きテナントや公共空間のリノベーションやまちづくり会社の設立・運営サポート、まちなか活性化事業の企画・運営・推進に取り組んでいます。

リノベーション事業

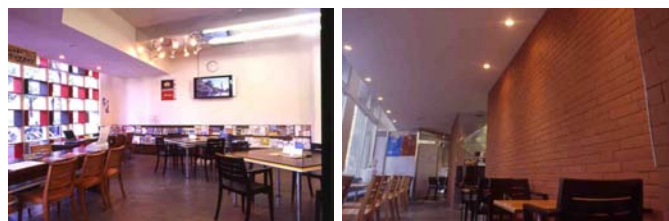
●さっぽろチャレンジオフィス（H18～24年度）

札幌商工会議所が中心となって推進している「中心市街地活性化事業」のひとつとして、都心部のビル空室の有効活用とにぎわいの創出を推進するためのパイロット事業。ビル空室のリノベーション事業のビジネスモデル構築とともに、個人事業者、起業家、ＳＯＨ、ＮＰＯ等の事業や活動への支援、都心部で活動する人材や組織の交流・連携を促進することを目的としたプロジェクトです。



●さっぽろ赤レンガカフェ（H16年度～19年度）

札幌・北海道のまちの魅力を発信し、地域の魅力を高めることを目的として、2004年に札幌 TMO により設立された、カフェ・観光情報・交流サロンの運営事業(2007年9月閉店)。インターネットや各観光資料の無料閲覧サービス、観光ボランティアによるガイド、さっぽろツーリズム(ミニツアー)の企画実施。



都心公共空間の活用マネジメント事業

●『kuraché(クラシェ)』コーディネート業務 (H25 年度～)

『クラシェ』は、暮らし×マルシェの造語。北海道の暮らしに新たなシーンを提案することを目的とした、つくり手とつかい手をつなぐマルシェ形式のPR販売イベントです。公共スペースにおける魅力的なイベントのモデルとなることを目指し、歩行空間でありながら落ち着いた雰囲気で立ち寄ることができる設えをデザイン。企画立案から出店者調整等の事務局業務を含めたトータルコーディネートを行っています（札幌駅前通まちづくり株式会社との共催）。



●元気カフェの計画・設計コーディネート業務（H20～24年度）

札幌市が、「障がい者の自立支援の促進」を目的として、障がいのある方の雇用の場の拡充とともに、接客等を通じた市民との交流機会を創出し障がい者に対する理解促進を図るために設置する「元気カフェ」の計画策定、デザインマネジメント業務。これまで、「元気カフェふらっと」（札幌市社会福祉総合センター1階アトリウム内/H20年度）、「元気カフェ」（札幌市役所本庁舎1階ロビー内/H22～23年度）、「元気カフェ本の森」（札幌市中央図書館アトリウム内/H24年度）の3店舗の整備に関わってきました。

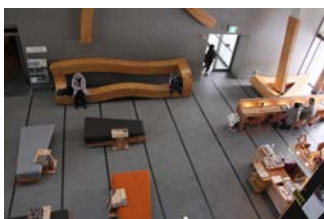


計画策定にあたっては、デザイン系大学の学生、障がい者支援団体のスタッフ、施設職員などによるワークショップを開催し、コンセプト、整備イメージ、取り組みアイデアをとりまとめ、利用者のおもいを具体的な設計に反映しました。また、カフェに置かれる家具の一部は、障がいのある方の丁寧な手仕事や糸鋸などの高い技術力によってつくられています。

元気カフェ（市庁舎ロビー）



元気カフェ本の森（札幌市中央図書館）



いずれも設計デザインは（株） p.b.v による

まちづくり組織サポート事業

●(仮称)札幌市清田地区センター計画策定・運営組織設立
コーディネート業務(H16～19年度)

(仮称) 札幌市清田区地区センターの建設にあたり、住民が建設・運営計画の検討を行うワークショップの運営支援業務。

設計前の構想段階からワークショップを開催。4年間をかけて基本構想、基本設計、建設、運営にいたるまで意見交換を行い、計画に反映。平成 20 年 4 月に「里塚・美しが丘地区センター」として開設されました。

ワークショップ 3～4 年目に開催した「運営を考える会」では、運営への地域住民の関わり方を検討。ワークショップ中心メンバーによる地区センター運営サポート組織「未来委員会」が設立され、現在も地域住民と指定管理者との協働のもと、施設をベースにした企画やコミュニティ活動が活発に行われています。



シンクタンク事業

観光振興、地域活性化、都市再生、医療・介護、障害者福祉、市民自治など、様々な分野における調査研究、提言・計画策定からプロジェクトの企画・運営までトータルに行います。

観光振興

●札幌市観光振興プラン策定補助業務（H23 年度）

札幌市観光振興プラン策定に向けた検討会議の運営、その議論に資するデータ収集のためのネットアンケート調査等を踏まえ、観光振興プラン草案の作成を行いました。

●来札幌観光客満足度調査及び外国人個人観光客動態調査（H17・H19～20・H24～25 年度）

道外在住者向けのネットアンケート調査、及びさっぽろ雪まつりに訪れた外国人観光客向けの対面アンケート調査を実施し、集客交流促進施策検討に資する情報収集・分析を行いました。

地域活性化・産業振興

●札幌市まちづくり戦略ビジョン策定支援業務・同策定準備支援業務（H23～24 年度）

札幌市の総合計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の策定に当たって、「市民 1 万人アンケート調査」を始めとする郵送・ネットアンケート調査の実施、同ビジョンを検討する審議会・専門委員会・市民会議等の運営補助、これらを踏まえた「まちづくり戦略ビジョン」の骨格案の作成を行いました。



●文化産業・スポーツ産業発展可能性調査事業（H23 年度）

札幌市における文化・スポーツ産業の発展可能性を探るため、市民向けインターネットアンケート調査、関連企業向けの郵送アンケート調査、先進事例調査等を実施。これらを踏まえて「音楽・演劇・美術・ファッション」分野、「冬季・夏季・プロスポーツ・健康関連産業」分野に関する振興策について提言を行いました。

市民自治、住民と行政の連携

●札幌市苗穂東地区「まちづくり活性化事業」企画・運営業務（H22、24 年度）

まちづくり活動に取り組む連合町内会を中心に、地域の団体及び住民、まちづくりセンターとの協働によるワークショップ等を行い、活動の担い手拡大や活動内容・運営方法の検討・見直し・取組の試行・検証を行い、今後に向けた提案を行いました。



交通

●航空路線需要調査事業（H24 年度）

北海道と北東北間を結ぶ航空路線の現状、需要、課題などを把握するため、アンケート及びヒアリング調査を実施しました。並びに検討委員会を設置し、航空機需要拡大方策について検討、提言を行いました。

●札幌丘珠空港都市連絡バスアンケート等調査業務（H25 年度）

丘珠空港と札幌都心部を結ぶ連絡バスについて、その利用状況・課題を探る空港利用者向けアンケート調査を実施。バス・航空便の乗客データと合わせて分析し、当該バス路線の採算性、利用促進の方策について検討・提言を行いました。

医療・介護、子育て支援、障害者福祉

●札幌市版医療計画策定関連業務（H20 年度～）

札幌市における医療のあり方を定める「さっぽろ医療計画」策定のために、市民向け・医療従事者向け郵送アンケート調査、「札幌市版医療計画策定委員会」のコーディネート・運営補助を実施。これらを踏まえ同計画の草案作成を行いました。



●札幌市子ども・子育て支援事業計画策定に関する調査・補助業務（H25 年度）

平成 26 年度策定予定の「札幌市子ども・子育て支援事業計画（仮称）」の検討資料とするため、市民アンケート調査の実施・分析、同調査を踏まえた「保育・教育二歳の量の推計」、就学前・就学児童がいる世帯の保護者と子育て関連施設スタッフなどを交えたワークショップの実施・意見収集、先進事例調査を行いました。



●授産製品の販路拡大方策検討業務（H20 年度～）

授産施設や授産製品を販売する店舗及び購入客などへのヒアリングやアンケート調査を実施し、障害をもつ方が製造する授産製品の販路拡大方策や札幌市が展開する授産製品販売所「元気ショップ」のあり方について検討・提言を行いました。

地域遺産トラスト事業

北海道遺産協議会の事務局運営、関連市町村・企業等の連携等を通して、持続可能な地域づくりのために、地域に関わるさまざまな主体がパートナーシップで活動をすすめられるよう支援を行っています。

北海道遺産協議会事務局の運営

北海道遺産とは、次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選定されたもの。北海道遺産構想を推進する北海道遺産協議会の事務局の運営を行っています。

●企業との連携による地域活動支援（H23 年度～継続）

「ほっかいどう遺産 WAON」（イオン北海道株式会社、マックスバリュ北海道株式会社）、「お茶で北海道を美しく」（株式会社伊藤園）から頂いているご寄付をもとに、北海道遺産の所在地域での保全活用に関する様々な取組みへの支援を行っています。

●「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」（H19 年度～継続）

北海道各地の宝物を掘り起こし、発信し、活用することで地域やまちの魅力を創造していくという北海道遺産構想の趣旨を全道へ波及させるためのプロジェクト。これまでに 6 回の審査を実施し、登録された 247 件の「ムラの宝物」と、各地の地域資源発掘事例 10 件をホームページ等を通じて道内外へ発信しています。



地域の文化環境保全活動

市民・行政・企業のパートナーシップによって地域の文化・環境を保全する活動を関係各所と連携して行っています。

●沙流川総合開発事業

平取ダム地域文化・環境保全対策検討業務（H18～21 年度）

平取ダム建設にともない、アイヌの文化的所産に与える影響の軽減および保全対策の具体化に向けた検討を行うため、地域住民と行政等のパートナーシップを軸として、その具体化に向けた地元関係者との調整や検討を行い、学識者等で構成される「平取ダム地域文化保全対策検討会」の運営及び資料作成を行うとともに、保全対策協議内容に資する検討を行い、地元アイヌ民族関係者等の意見を集約して具体策案の取りまとめをおこなっています。



●平取町文化的景観自然的环境等調査業務（H24～R3 年度）

平成 19 年に「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」として国の重要文化的景観に指定された平取町の文化的景観について、現在追加の選定に向けて、現在の景観を構成している要素の抽出、その景観が作られてきた歴史的経緯等について幅広い調査を行っています。



●平取町文化的景観普及・啓発業務（H24 年度）

平取町の文化的景観について知ってもらうために、札幌等からのツアーの実施、地元の方が文化的景観について解説を行うためのガイド養成講座等の開催等により、道内外への文化的景観の普及啓発活動を行っています。



●沙流ユーカラ街道活性化支援（H24～26 年度）

国道 237 号線（愛称:沙流ユーカラ街道）沿線の観光資源を利用して、道央圏都市住民との交流の促進を図る取組みの支援。旅行会社と協力して札幌からのシャトルバスによる体験ツアーを開催。また、関係団体による「沙流ユーカラ街道活性化協議会」の運営のサポートを行っています。



出版・プロモーション事業

出版物、Web サイトなどの媒体やイベントを通して、北海道の地域の魅力、価値を発信しています。

出版 地域の魅力を伝える出版物を企画、出版しています。

●季刊誌『カイ』(H20 年度～)

「北海道を探しに行こう」をコンセプトとした
大人のためのホッカイドウマガジンを発行しています。



広報誌、記念誌など 社内報、情報誌、記念誌の制作を行っています。

●広報誌

『JUMP』(野口観光社内報：H2 年度～継続)
『北海道遺産パンフレット』(NPO 法人北海道遺産協議会：
H25 年度)

●記念誌

『旭イノベックスの歩み』(旭イノベックス：H24 年度)
『泣いて笑って八十年』(野口観光記念誌、H22 年度)



プロモーション

地域や企業・団体の情報発信を、企画から編集・制作までトータルにサポートします。

●名寄もっと！もち米プロジェクト

(名寄市食のモデル地域実行協議会：H25 年度～H27 年度)



レシピ：毎月10日「名寄もち米の日」に市
内で配布

イベント：札幌市で開催さ
れたイベントでのPRを企
画・コーディネート

●そらいちプロジェクト

(北海道空知総合振興局：H23 年度～H26 年度)

冊子：『空知の「いちばん」を発見する旅へ
～そらいち 食と観光のガイドブック』



スマートフォンアプリ：
『そらいち』

●公立はこだて未来大学ウェブサイト

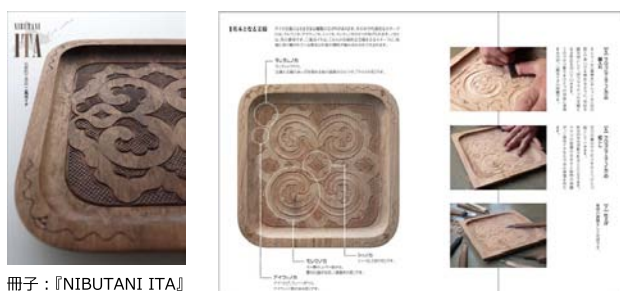
(公立はこだて未来大学：H25 年度)



WEB サイト：『公立はこだて未来大学-FUTURE UNIVERSITY HAKODATE』

●伝統的工芸品二風谷イタの広報冊子

(二風谷民芸組合：H25 年度)



冊子：『NIBUTANI ITA』

まちづくり組織連携事業

NPO 法人の事務局運営や地域団体との連携など、地域のネットワークづくりを支援します

NPO 法人北海道遺産協議会 事務局運営

次世代に引き継ぎたい北海道ならではの宝物「北海道遺産」。豊かな自然、人々の歴史や文化、生活、産業など様々な財産の中から、平成 13 年に 25 件、平成 16 年に 27 件、平成 30 年に 15 件、そして、令和 4 年に第 4 回選定分 6 件と名称変更 1 件が決定・公表され、74 件になりました。

事務局では北海道遺産選定地域や道内企業と連携をとりながら、「普及・啓発」「保全・活用推進」等の活動を行っています。H20 年度までは任意の民間団体として活動をしてきましたが、H21 年度からは NPO 法人として新たな活動の展開を目指します。

苗穂駅周辺まちづくり協議会支援

JR 苗穂駅の北口開設要望を契機として設立に至った苗穂駅周辺まちづくり協議会の、駅移転と自由通路による目標の早期実現と、新駅を核として苗穂地区の再生を目指す、住民・企業・行政のパートナーシップによるまちづくり活動の推進を支援しています。

同協議会が進めている、花植えやベンチの設置など景観まちづくりの実践活動の運営支援や、北海道遺産に選定されている地域内の工場・記念館群の活用を検討し、これらの産業遺産を巡るルートパンフレットの企画と作成を支援、また、コミュニティカフェの開設支援や、ホームページと壁新聞「はばたく苗穂」による広報活動の支援、「フォーラム 苗穂再開発物語」や協議会が主催するワークショップの運営サポートなどを行いました。

その他、都心に関わる様々な主体との連携

企業・民間・行政など、札幌の都心に関わる様々な主体の運営や事業推進のサポートを行っています。

札幌駅前通りおよび札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）周辺のまちづくりを推進している「札幌駅前通まちづくり株式会社」との連携では、同社が会議を運営する北三条広場（仮称）検討会議の運営サポートや、チカホ利用のモデルづくりと賑わいを演出する“kuraché（クラシェ）”事業の事務局を担当するなど、多彩な協働事業を展開しています。

また、創成川以東地区では、民間企業と協働で地域活動を行う実行委員会を立ち上げ、まちの魅力アップ事業を進めています。都市と環境の観点からは、環境保全アイコンとして都心でミツバチを飼育し、市民のネットワークづくりを進める「NPO 法人サッポロミツバチプロジェクト」の事務局サポートを行いました。

